

第3回 新宿区協働支援会議次第

令和5年11月13日(月)午後2時00分から午後4時00分
新宿区役所本庁舎6階第3委員会室

1 開 会

2 議 事

- (1) 一般事業助成の実施状況の報告
- (2) 一般事業助成の振り返り及び令和6年度募集への反映について

3 次回開催について

令和5年度 第4回協働支援会議
令和6年2月5日(月) 14時から16時
議題 令和6年度一般事業助成募集要項の確定

4 閉 会

5 配付資料

- 【資料1-1】令和4年度助成事業の実績報告
- 【資料1-2】令和5年度助成事業の実施状況について
- 【資料2】令和6年度一般事業助成における変更点について
- 【資料3】令和6年度助成団体決定までの流れについて(案)
- 【資料4】令和6年度一般事業助成 スケジュール表(案)

令和4年度一般事業助成 助成団体一覧				
No.	団体名	法人区分	事業名	決算に基づく助成額 (円)
1	日本吃音協会	NPO法人	吃音に理解のある地域共生社会	352,000
2	10代・20代の妊娠SOS新宿- キッズ&ファミリー	NPO法人	歌舞伎町夜間パトロールと相談所事業	500,000
合計				852,000

第6号様式(第12条関係)

2023年 3月 6日

新宿区長 宛て

団体名 特定非営利活動法人 日本吃音協会
 所在地 東京都新宿区住吉町1-18 TVB曙橋ビル 5階
 (フリガナ) フジモト コウジ
 代表者氏名 藤本 浩士 印

新宿区協働推進基金助成金事業実績報告書

新宿区協働推進基金条例施行規則第12条の規定により、下記のとおり報告します。

		記
1 収支計算額	収入	528,537 円
	(内助成金)	352,000 円
	支出	528,537 円

2 助成事業

事業名	吃音に理解のある地域共生社会
実施の日時又は期間	令和4年8月から令和5年2月
対象者の範囲及び人数	新宿区内外にお住まいの吃音の当事者、吃音の子の保護者や吃音の理解を深めたい新宿区民
事業内容	吃音症の理解や啓発、吃音の当事者や当事者のご家族のケアを目的とし、吃音ドクター菊池良和医師の講演会や吃音の専門家チームによる相談会・交流会を実施した。 各イベント前に告知活動や事業運営の会議を行った。

<p>具体的な活動状況</p>	<p>【運営会議の開催実績】</p> <p>■ 対面での運営会議 11/22(火曜日) : 対面イベントの会場での運営デモンストラーションの実施</p> <p>■ オンラインでの運営会議 ①10/15(土曜日):12/3(土曜日)のイベントの運営会議 ②10/18(火曜日): 広報・集客のためのデザイン制作物の検討会議 ③11/4(金曜日):12/3(土曜日)のイベントの運営会議 ④1/16(月曜日):1/21(土曜日)のイベントの運営会議 ⑤2/1(水曜日):2/18(土曜日)のイベントの運営会議 ⑥2/18(土曜日)計3回のイベントの振り返り</p> <p>【事業実績】 吃音の当事者や吃音関係者、吃音の理解を深めたい区民を対象とした吃音症の専門家による講演会・相談・交流会を実施</p> <p>■ 対面での講演会・相談会・交流会(1回) 令和4年12月3日(土曜日) 10:00～12:30 参加者人数:38名 (内新宿区民5名) ※吃音の当事者以外の3名を含む</p> <p>■ オンラインでの講演会・相談会・交流会(2回) ①令和5年1月21日(土曜日) 13:00～15:00 参加者人数:8名 (内新宿区民2名)</p> <p>②令和5年2月18日(土曜日) 13:00～15:00 参加者人数:7名 (内新宿区民1名)</p>
-----------------	--

<p>事業の成果</p>	<p>対面での講演会について、定員の40名を上回る50名からの応募があり、当日の参加者は38名であった。オンラインイベントについては、1月21日は8名、2月18日は7名の参加があった。</p> <p>また、新宿区内の掲示板へのイベントポスターの掲載や新宿ソダチの取材を通して、新宿区内での吃音症への理解促進を図った。</p> <p>アンケート結果からは、対面イベントとオンラインイベントともに、講演会、相談会、交流会の項目において、83%以上の参加者が満足と回答し、講演会と交流会にいたっては90%以上の参加者が満足と回答した。現場での参加者の声からも本イベントの満足度の高さが示された。</p> <p>計3回のイベントを実施することにより、吃音臨床で有名な九州大学病院 菊池医師、慶應義塾大学病院 富里医師との連携強化に繋がっただけではなく、3名の参加者の当団体へのボランティア登録及び5名の参加者の会員登録につなげることができた。</p> <p>■イベント参加者の声(一部抜粋)</p> <p>○第一部 講演会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・吃音当事者の病院の先生が教えてくれるので信頼できた。 ・息子が今後の学校生活を育む上での知恵を知ることができた。 ・吃音を気にせず話をしている菊池先生の姿を見て勇気をもらいました。 <p>○第二部 相談会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就活について親身になって相談を聞いて頂き大変心強かったです。 ・吃音で悩んでいたことが減り、勇気が湧いた。 <p>○第三部 交流会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境を変えられるのは、今の大人なので自分たちが変えていけないと改めて感じました。 ・吃音当事者から様々な考えを直接聞くことができ、とても参考になりました。
--------------	---

収支決算書

費 目		予 算 額	内 訳
支 出 区 分	①使用料及び賃借料	24,750 円	貸会議室 (1回使用: 24,750円)
	②消耗品及び印刷費	13,727 円	ポスター印刷(A1片面カラー・光沢紙 3部): 5,519円 ポスター印刷(A4片面カラー・マット紙 100部): 1,813円 チラシ印刷(A4片面カラー・光沢紙 2000部): 5,322円 プログラム印刷(A4片面カラー・光沢紙紙 80部): 1,073円
	③委託費	150,000 円	チラシ・ポスターデザイン費用 計4枚: 80,000円 チラシ・ポスターディレクション費用: 30,000円 チラシ・ポスター修正費用: 5,000円 イベントプログラム修正費用: 5,000円 イベントの集客支援: 30,000円
	④講師謝礼	158,560 円	講師①: 30,000円×1日=30,000円 講師②: 30,000円×3日=90,000円 講師交通費(飛行機 往復): 38,560円
	⑤その他謝礼	180,000 円	ボランティア計10名 3,000×6日×10人=180,000円(交通費込)
	⑥交通費	1,500 円	12月3日イベントの荷物運搬のためタクシー利用 (日本吃音協会事務所付近⇄四谷三丁目)
	⑦保険料	0 円	
	⑧その他諸経費	0 円	
	⑨新型コロナウイルス感 染症対策経費	0 円	※上限20,000円
	⑩人件費	0 円	※下記「事業費」の25%以内 (176,179)
事業費 (①から⑩の合計)		528,537 円	
⑪ファンドレイジングに関 する経費		0 円	※事業費の5%以内 (26,427)
⑫助成対象経費 (事業費+⑪)		528,537 円	
⑬助成対象外経費		0 円	
事業総額		528,537 円	

内 容		予 算 額	積算根拠 (内訳)		
収 入 区 分	㉞ 事業収入 (参加料、資料代等)	0 円			
	① 寄附金	0 円			
	㉞ 補助金収入	0 円	予算時	返還額	0
	㊥ 協働推進基金助成金	352,000 円	交付額	455,000	返還額 103,000
	㉞ 団体負担金	176,537 円			
収入総額		528,537 円			

返 還 金	103,000 円	
-------	------------------	--

自己評価表

1 各項目に評価点を付し、「評価の理由」欄には、判断した理由や実績、課題等を記載してください。

【評価点】 4:計画書以上 3:概ね計画書どおり 2:一部計画書どおり 1:ほぼできなかった

評価のポイント	評価点	評価の理由
地域課題や社会的課題に対して成果や効果があったか。	3	新宿区内での吃音の啓発や障害理解、相談窓口の拡充の目標はアンケート結果により概ね達成できたと評価する。
事業を通じて、多くの区民の社会貢献活動の啓発に役立つものとなったか。	3	イベント告知のチラシやポスター、新宿ソダチからの取材を通して、区内での吃音症の啓発に貢献し、区民の社会貢献活動の啓発に役立てた。
事業計画及びスケジュールに沿って事業を実施できたか。	3	イベント内容の一部変更があり、事業計画・実施スケジュールが変更になったが、イベントの準備から実施まで概ね円滑に進んだと評価する。
実施にあたり、必要な人員や安全等の確保がなされたか。	4	計画通りに実施することができた。コロナ感染症ウィルス拡大の対策として、当日参加者の出欠名簿・連絡簿を作成し、感染者が出た時に速やかに他の参加者に連絡ができるような体制を整えた。
経費見積りは適正だったか。資金確保に努めたか。	2	事業計画・実施スケジュールが変更になったが、経費を再見積もりし、対応することができた。
団体の先駆性や専門性を活かすことができたか。	4	当団体が有する人材ネットワークを活かし、吃音臨床の第一人者である九州大学病院菊池良和先生の講演会を実施できた。また、相談会や交流会も当団体の専門性を活かすことができた。
継続性や発展性が期待できるものとなったか。	3	本事業をきっかけに九州大学病院の菊池良和医師や慶應義塾大学病院の富里周太医師との連携体制が確立できた。 本イベントの参加者がその後、当団体の会員やボランティアとなり、社会貢献活動に参加している。

(裏面もご記入ください)

2 事業全体を振り返って気づいたこと等をお書きください。

<p>事業を実施したことで見えてきた良かったこと、また課題や改善策。</p>	<p>本事業のイベントの参加者から「本当に参加して良かった」、「人生が変わった」、「勇気が湧いた」などポジティブな声が多数寄せられた。一方で、オンラインのイベントの参加者が定員に達しなかったことから、集客に向けての周知方法等が課題となった。</p>
<p>助成金を利用することで、団体や事業にとって有益となったこと。 (例：事業運営での気づきや工夫、解消された課題等)</p>	<p>助成金申請から事業運営を通して、団体設立後始めて助成対象団体になったこと、助成金申請の知見を得ることができたこと、中規模イベントの企画・立案・運営までを行い中規模イベントの運営方法の知見を得ることができたことが有益と感じる。 今回のイベントを行う以前までは、吃音診療を行う医師チームとの連携が不十分であったが、今回のイベントを通じて、当事者団体と医師チームとの連携強化の足がかりとなった。</p>

令和4年度新宿区協働推進基金助成金一般事業助成の実施事業でのアンケート結果
 特定非営利活動法人 日本吃音協会

1. 日本吃音協会主催講演会 2022 in 新宿

2022年12月3日(土曜日)に開催された日本吃音協会主催講演会 2022 in 新宿のアンケート結果、参加者からのフィードバック、傾向についてイベントごとに以下に示す。

1.1 第一部 吃音ドクター菊池良和先生による講演会のアンケート結果と傾向について

第一部イベント参加者の属性とフィードバックを表1に、結果を図1に示す。表で(当)は吃音の当事者を意味し、(非)は吃音の非当事者を意味する。

表1 第一部イベント参加者の属性とフィードバック

属性	第一部イベントの参加者のフィードバック
40代男性(当)	吃音のメカニズムや特徴がとてもわかりやすかった
50代女性(非)	吃音にも出方があり、タイミングとバランスの影響が大きいとわかった
20代女性(当)	吃音の知らなかったことや知っていることについて改めて考える機会になった
30代男性(当)	吃音を気にせずに話している菊池先生の姿をみて勇気をもらいました
10代男性(当)	吃音の当事者の先生が教えてくれるので情報が信頼できた

極めて満足、満足と評価する参加者の割合が100%を占めた。吃音の症状、二次障害から吃音診療、障害者手帳、吃音当事者の就労状況について包括的かつ端的な講演会であったため、吃音当事者であっても初めて耳にする内容が多かった。吃音の当事者であり、吃音診療の第一人者の医師の講演会であるため、情報の信頼性も高く、菊池医師の吃音の症状が出ながらの講演会に勇気をもらった吃音の当事者も多いと考える。極めて満足と回答した人が13名、満足と回答した人が8名であった。

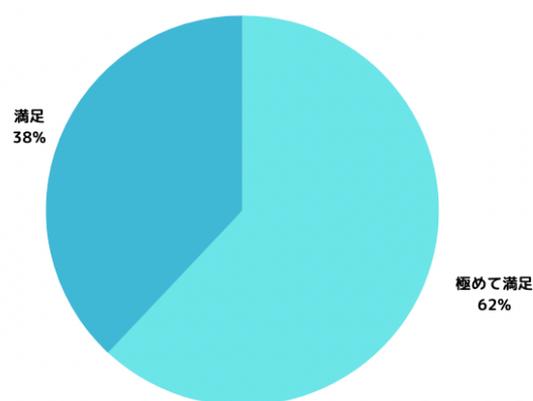


図1 第一部のアンケート結果 n=21

1.2 第二部 吃音なんでも相談会のアンケート結果と傾向について

第二部イベント参加者の属性とフィードバックを表2に、結果を図2に示す。

表2 第二部イベント参加者の属性とフィードバック

属性	第二部イベントの参加者のフィードバック
20 代男性 (当)	就活について親身になって相談できて心強かった
30 代女性 (非)	個別相談は、順次解散できるようにプログラムの最後の方が良いと思う
20 代男性 (当)	菊池先生に話を聞いてもらえた
40 代男性 (非)	メンタル面での吃音の付き合い方について知れてよかった
10 代男性 (当)	吃音の悩みが減った。勇気が湧いた

極めて満足、満足と評価する参加者の割合が90%を占めた。一方でどちらとも言えない、やや不満と回答した参加者の割合が10%を占めた。吃音なんでも相談会は菊池良和医師、桐貴清羽氏、当団体藤本理事長、当団体就活支援キャリアアドバイザーの4名の相談員が吃音の当事者の悩みに寄り添う趣旨のイベントである。第二部イベントの評価は、イベント自体の評価よりも、相談員への不満やイベント進行の手際への評価の可能性の方が高いと考えられる。実際に、相談員によって知識の偏りや話の聞き方など異なり、相談員に対して不満を持つ当事者も少なからずいた。

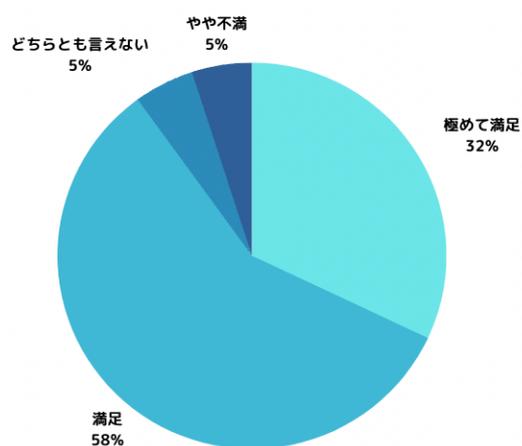


図2 第二部のアンケート結果 n=21

個別ブースを設けた相談会を開催する場合は、どの相談員がどの悩み相談に対応しているのかを事前にアナウンスし、相談員と相談者の最適なマッチングが必須である。また、相談員の選出基準を再度見直す必要があると痛感した。極めて満足と回答した人が7名、満足と回答した人が12名、どちらともいえないと回答した人が1名、やや不満と回答した人が1名であった。

1.3 第三部少人数グループでの座談交流会のアンケート結果と傾向について

第三部イベント参加者の属性とフィードバックを表3に、結果を図3に示す。

表3 第三部イベント参加者の属性とフィードバック

属性	第三部イベントの参加者のフィードバック
30 代男性 (当)	藤本さんの子供への支援や吃音者に必要な成功体験の話が有意義だった
50 代女性 (当)	菊池先生と藤本さんの話は頷ける話が多かったです
20 代男性 (当)	貴重なお話が聞けた
40 代男性 (非)	吃音への捉え方が整理できた。

極めて満足と回答した参加者が

55%、満足と回答した参加者が 45%を占め、当講演会イベントの中で最も参加者の評価が高いイベントになった。吃音当事者の悩みの一つとして、「吃音を理解してくれる人と話してみたい」がある。吃音に理解のある環境での少人数での交流会は吃音当事者に発話へのプレッシャーを与えることなく、当事者が自由に話すことができる。吃音が出る恐怖へのプレッシャーを感じることなく、自由に話すこと

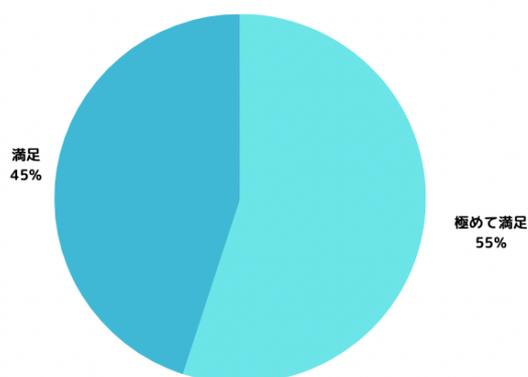


図3 第三部のアンケート結果 n=21

ことができる場合は、吃音当事者にとって社会参加の契機となる。本イベント以外にも対面・オンラインでも交流会のイベントを開催しているが、今回の第三部イベントの評価より、改めて吃音があっても吃音の症状に恐怖することなく自由に話せる場の必要性を再認識した。極めて満足と回答した人が 12 名、満足と回答した人が 9 名であった。

2. オンライン座談相談会

2023 年 1 月 21 日(土曜日)、2 月 18 日(土曜日)に開催されたオンライン座談相談会のアンケート結果、参加者からのフィードバック、傾向についてイベント毎に以下に示す。アンケート回答者が少ないためアンケート結果は 1 月 21 日、2 月 28 日をまとめて集計している。

2.1 第一部 吃音ドクター菊池良和先生の収録講演会配信のアンケート結果と傾向について

第一部イベント参加者の属性とフィードバックを表 4 に、結果を図 4 に示す。

表 4 第一部イベント参加者の属性とフィードバック

属性	第一部イベントの参加者のフィードバック
20 代男性 (当)	菊池先生の話がわかりやすかった
20 代女性 (当)	吃音について深く知ることができた
40 代女性 (非)	さまざまな情報をいただけたのでよかった

極めて満足と回答した参加者が 16.7%、満足と回答した参加者が 83.3%を占めた。吃音

ドクター菊池良和先生の収録講演会の配信では2022年12月3日に開催された日本吃音協会主催講演会 2022 in 新宿 第一部イベントの収録動画を配信した。対面式のイベントよりも極めて満足と回答する参加者の割合は少ないが、講演動画の情報量の多さや情報の信頼性から高評価を得た。今回のオンラインイベントでは菊池医師の日程の都合から、イベントへの参加が難しく、12月3日の収録動画の配信となってしまったが、オンラインでの講演会なども実施できるように検討していきたい。極めて満足と回答した人が1名、満足と回答した人が7名であった。

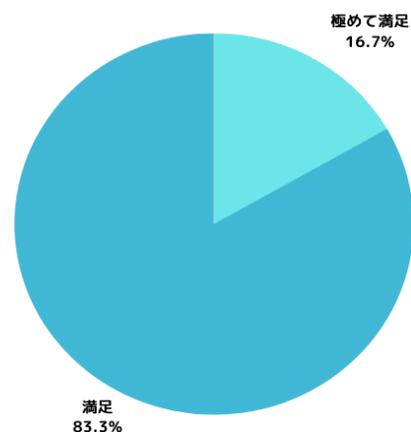


図4 第一部のアンケート結果 n=8

2.2 第二部 吃音なんでも相談会のアンケート結果と傾向について

第二部イベント参加者の属性とフィードバックを表5に、結果を図5に示す。

表5 第二部イベント参加者の属性とフィードバック

属性	第一部イベントの参加者のフィードバック
20代男性(当)	吃音をハンデではなく武器だと捉えることができました。
40代女性(非)	たくさんのアドバイスをいただきました。ありがとうございました。

極めて満足、満足と評価する参加者の割合が100%を占めた。12月3日の吃音なんでも相談会と比較して満足度が高い第二部イベントとなった。12月3日の対面イベントの吃音なんでも相談会での反省を踏まえ、相談員の選定を厳粛に行った。また、オンラインでのイベントはzoomのブレイクアウトルームを活用し、オンライン上でもスムーズに個別相談の案内ができたのが高評価につながったと推察される。極めて満足と回答した人が5名、満足と回答した人が3名であった。

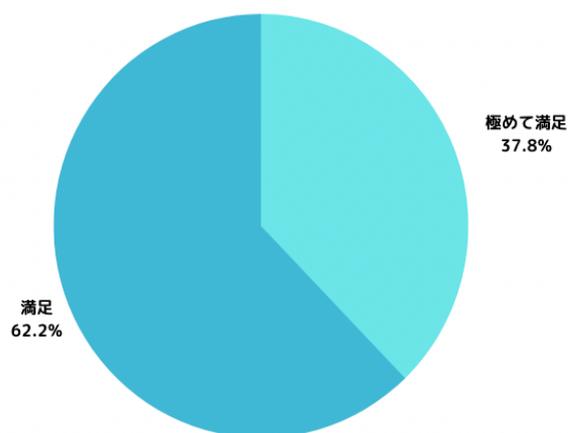


図5 第二部のアンケート結果 n=8

2.3 第三部 少人数グループでの座談交流会のアンケート結果と傾向について

第三部イベント参加者の属性とフィードバックを表6に、結果を図6に示す。

表6 第二部イベント参加者の属性とフィードバック

属性	第一部イベントの参加者のフィードバック
20代女性(当)	吃音の方との交流ができて、悩みを話せることができたので良かったです。
10代女性(当)	当事者の方から様々な意見を聞くことができ、少し気持ちが楽になりました。

33.3%の参加者が極めて満足と回答し、66.7%の参加者が満足と回答した。極めて満足と回答する参加者の割合は対面イベントのよりも減少したが、概ね高評価を得た。12月3日のイベントでは満足よりも極めて満足と回答した参加者の割合の方が多いが、オンラインイベントではその逆となった。オンラインでの交流会は対面での交流会と比べ、表情や身体言語が読み取りにくく、対話での理解や共感が低下し、コミュニケーションの質が下がる傾向にある。新型コロナウイルスの影響で、対面でのイベントへの自粛が余儀なくされ、オンライン全盛期となっている今、当団体では今後行う対面でのイベントの割合を増やし、吃音当事者の社会参加を後押しする活動を推し進める必要があると考える。極めて満足と回答した人が3名。満足と回答した人が5名であった。

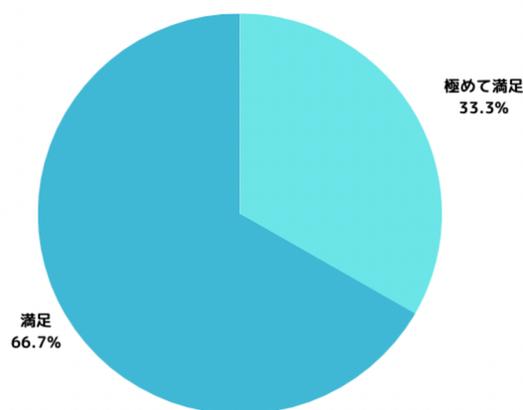


図6 第三部のアンケート結果 n=8

第6号様式(第12条関係)

令和5年3月31日

新宿区長

宛て

団体名 特定非営利活動法人

10代・20代の妊娠SOS新宿ーキッズ&ファミリー

所在地 新宿区西早稲田3-8-11

(フリガナ) サトウ ハツミ

代表者氏名 佐藤 初美

印

新宿区協働推進基金助成金事業実績報告書

新宿区協働推進基金条例施行規則第12条の規定により、下記のとおり報告します。

記

1 収支計算額	収入	<u>1,814,959</u> 円
	(内助成金)	<u>500,000</u> 円
	支出	<u>1,814,959</u> 円

2 助成事業

事業名	歌舞伎町夜間パトロールと相談所事業
実施の日時又は期間	令和4年7月1日～令和5年3月31日の毎週金曜と土曜の20時～24時
対象者の範囲及び人数	歌舞伎町に集まる10代から20代前半の若年女性
事業内容	<p>①歌舞伎町内パトロール 歌舞伎町1丁目、2丁目界限を中心にパトロールを行い、若年女性に対し、グッズとともに相談窓口案内のカードを手渡し、「困ったり相談したい時は、相談窓口に連絡を」と呼びかけた。</p> <p>②夜間相談所 相談内容に応じ、医療機関の受診や行政支援等につなげた。 また、新宿区のフードドライブを活用し、すぐに食べることができ持ち帰ることができる食品を提供した。</p>

<p>具体的な活動状況</p>	<p>【事業実績（延べ人数）】</p> <p>①歌舞伎町夜間パトロール声かけ人数 ②夜間無料相談所相談者数</p> <p>●7月分 ①声かけ人数257名（1日平均 25.7名） ②相談者数 67名（1日平均 6.7名）</p> <p>●8月分 ①声かけ人数339名（1日平均 37.6名） ②相談者数 48名（1日平均 6名）</p> <p>●9月分 ①声かけ人数295名（1日平均 32.7名） ②相談者数34名（1日平均 3.7名）</p> <p>●10月分 ①声かけ人数303名（1日平均 33.6名） ②相談者数38名（1日平均 4.2名）</p> <p>●11月分 ①声かけ人数339名（1日平均 42.3名） ②相談者数27名（1日平均 3.3名）</p> <p>●12月分 ①声かけ人数421名（1日平均 46.7名） ②相談者数44名（1日平均 4.8名）</p> <p>●1月分 ①声かけ人数314名（1日平均 39.3名） ②相談者数26名（1日平均 3.3名）</p> <p>●2月分 ①声かけ人数474名（1日平均 59.3名） ②相談者数34名（1日平均 4.3名）</p> <p>●3月分 ①声かけ人数507名（1日平均56.3名） ②相談者数22名（1日平均 2.5名）</p>
-----------------	---

<p>事業の成果</p>	<p>【事業の成果】</p> <p>①歌舞伎町夜間パトロール</p> <ul style="list-style-type: none"> ●実施回数：夜間パトロール 合計79回 ●パトロール中に声かけ手渡した延べ人数：3,249名 ・パトロールで、グッズとともに相談窓口の案内カードを配布することで、メール相談や電話相談につながった。 <p>②夜間相談所</p> <ul style="list-style-type: none"> ●開所回数：合計78回 ●夜間相談所来所者数 合計延べ人数 340名 ・相談支援対応人数 86名（受診同行、福祉事務所同行、保健センター同行等） ・困窮し住まいの無い若年妊婦4名をシェルターに一時保護し、安心安全を保障しながら、宿所提供施設や婦人保護施設に入所してもらう等、行政支援につなげ、母子ともに無事に4名が出産を終えることができた。産後、自分で育てる選択をして育児を行っていることから、引き続き寄り添いながら、育児相談育児支援を行っている。 ・夜間相談所開設当初は、相談所に来所する女性たちに福祉による生活の立て直しを勧めても「無理！」とあきらめ、拒否していた女性も、相談所で顔を合わせる他の女性が福祉に同行し、生活を立て直していくのを見て、「自分もできるかも」と希望を抱き福祉につながる女性が少しずつ増えてきている。 ・パトロールで声掛けをし、来所した10代・20代の女性たちの口コミで新たな女性が来所するようになってきている。 <p>【アンケートの回答より】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの「これからも相談所を利用したいか？」の問いに全ての回答者が、「今後も利用したい」と回答した。 <p>【アンケート回答による夜間相談所利用者の主な声】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活に必要な物が用意されていてスタッフの方が親切だった。 ・話しやすかった。 ・生活について相談したい。 ・家を探したい。 ・お茶、お菓子が嬉しい。・栄養のあるものが欲しい。 ・パスタかカップ麺、焼きそばが欲しい。 ・このままずっと続けて欲しい。 ・いつも、有難う。
--------------	---

歌舞伎町夜間相談所利用者アンケート集約結果

アンケート期間（令和4年7月1日～令和5年3月31日）

回収総数—132人(回収率44%)

Q1.相談所で安心できましたか？

- ・大変安心できた100%—102人(78%)
- ・ほっとできた80%—20人(16%)
- ・安心できた60%—9人(6%)
- ・やや安心できなかった40%—0人(0%)
- ・安心できなかった20%—0人(0%)

Q2.これからも利用したいとおもわれますか？

- ・これからも利用したい—132人(100%)
- ・利用したくない — 0人(0%)

Q3.相談所のスタッフに相談したことがありますか？

- ・相談したことがある—78人(59%)
- ・相談したことがない—15人(11%)
- ・今後相談したい — 40人(30%)

Q4.その他、要望や困っていることや感想等

- ・お金を貸し借りしたトラブルについて助けてもらった
- ・寒さ対策
- ・レトルト食品、バスタかカップ麺、焼きそばが欲しい。
- ・栄養のあるものが欲しい
- ・清潔な大きな服(4L~XL)が欲しい
- ・このままずっと続けて欲しい。
- ・咳、喉が痛い。薬が欲しい。
- ・むくみ取り対策を教えて欲しい
- ・漫画喫茶の隣の部屋の人が障害を持っていて騒ぎうるさくて知り合いが睡眠薬をもらって飲んで寝ているがストレス
- ・話しやすかった
- ・話し方について教えてもらった
- ・生活について相談したい
- ・これから何をして行かないといけないか教えてもらえてよかった
- ・使える制度のことなど、丁寧に教えてもらえてよかった。
- ・生活に必要な物が用意されていてスタッフが親切だった。
- ・家を探したい
- ・いつも、ありがとう

収支決算書

費 目		予 算 額	内 訳	
支 出 区 分	①使用料及び賃借料	390,000 円	事務所使用料：2022年7月～2023年3月 5,000円×78回=390,000円	
	②消耗品及び印刷費	158,993 円	使い捨てカイロ44,796円、リップクリーム102,190円、両面テー プ1,007円、印刷製本費11,000円	
	③委託費	0 円		
	④講師謝礼	0 円		
	⑤その他謝礼	546,000 円	Twitter、Facebook更新謝礼 8,000円/月×9か月=72,000円 ボランティア謝礼 6,000円/回×79回=474,000円	
	⑥交通費	42,000 円	スタッフ交通費（駐車場料金） 1,000円/回×42回=42,000円 ※50回従事しているが、内8回は別件があり電車で到着していた ため、駐車場料金が発生していない。	
	⑦保険料	0 円		
	⑧その他諸経費	54,750 円	病院受診費用及び薬局費用54,750円	
	⑨新型コロナウイルス感 染症対策経費	12,940 円	※上限20,000円 手指消毒アルコールミニボトル代12,940円	
	⑩人件費	400,000 円	※下記「事業費」の25%以内 (401,561) (法人会員) 6,000円/回×50回=300,000円 (アルバイト) 5,000円/回×23回=115,000円 ※内、3回分15,000円は対象外経費へ計上	
事業費（①から⑩の合計）		1,604,683 円		
⑪ファンドレイジングに関 する経費		80,215 円	※事業費の5%以内 (80,235) 寄附募集ダイレクトメール郵送料・寄附礼状はがき等郵送料 =195,276円 ※内、115,061円は対象外経費へ計上	
⑫助成対象経費 （事業費+⑪）		1,684,898 円		
⑬助成対象外経費		130,061 円	(人件費) 5,000円/回×3回=15,000円 (ファンドレイジング) 寄附募集ダイレクトメール郵送料・寄附 礼状はがき等郵送料=115,061円	
事業総額		1,814,959 円		

内 容		予 算 額	積 算 根 拠 (内 訳)			
収 入 区 分	㊦ 事業収入 (参加料、資料代等)	0 円				
	① 寄附金	1,100,000 円	寄附収入			
	㊧ 補助金収入	0 円	予算時		返還額	0
	㊨ 協働推進基金助成金	500,000 円	交付額		返還額	0
	㊩ 団体負担金	214,959 円				
収入総額		1,814,959 円				

返 還 金	0 円	
-------	-----	--

自己評価表

1 各項目に評価点を付し、「評価の理由」欄には、判断した理由や実績、課題等を記載してください。

【評価点】 4:計画書以上 3:概ね計画書どおり 2:一部計画書どおり 1:ほぼできなかった

評価のポイント	評価点	評価の理由
地域課題や社会的課題に対して成果や効果があったか。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・虐待やDVの中で育ち大人を信用しない女性たちが、夜間相談所の相談を通じて福祉につながり、昼間の社会に復帰していく姿を見て「私も立て直しができるかも」と希望を抱く女性が増えてきている。 ・歌舞伎町を彷徨っていた小学生と中学生たちを夜間相談所に連れて来てくれたことで、被害に合う前に保護できたケースがあった。 ・歌舞伎町内で活動している他団体から依頼され、若年女性の対応を行うことがあった。 <p>以上を踏まえ、地域課題や社会的課題に対して十分な成果や効果があったものと評価する。</p>
事業を通じて、多くの区民の社会貢献活動の啓発に役立つものとなったか。	2	<ul style="list-style-type: none"> ・区が発行する冊子「新宿ソダチ」に記事を掲載することで、区民に活動を知ってもらえる機会になった。 ・ロコミでパトロールや夜間相談所の体験をしに来る区民の方がいるなど社会貢献活動の啓発に役立てることができた。 ・公の場所に、法人の活動紹介のチラシ等を置けなかったことから周知に課題があった。
事業計画及びスケジュールに沿って事業を実施できたか。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・夜間相談所で相談を受けた女性について、病院等に同行したことや、昼間に訪問面談等をするなど当初計画以上の活動を実施した。 ・区と連携しながら、歌舞伎町の店舗や若年女性が利用するネットカフェやホテル等に相談窓口案内のカードを設置することができた。
実施にあたり、必要な人員や安全等の確保がなされたか。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・有償ボランティアを募ることで、必要な人員を確保することができた。 ・新宿警察署と連携し、危険な場合は警察が対応していただく体制を取ることで安全を確保できた。
経費見積りは適正だったか。資金確保に努めたか。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・寄付金を募り、資金確保に努めた。 ・経費見積書に計上した消耗品の内、パトロール時に配布するグッズの一部を企業から寄付を受け、支出の削減を行った。
団体の先駆性や専門性を活かすことができたか。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・法人の相談スタッフは、精神保健福祉士、社会福祉士、助産師と国家資格を持った経験豊富なスタッフで構成しており、法人の相談援助スキルを発揮して、対応することができ、相談者の信頼を得ることができた。

<p>継続性や発展性が期待できるものとなったか。</p>	<p>4</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・歌舞伎町 2 丁目町会をはじめとして、継続を望む声が多く、町会事務所を令和 5 年度も継続して使用させていただけることになった。 ・歌舞伎町を彷徨っている若年女性たちからも、夜間相談所の継続やパトロールを継続する要望が多く、令和 5 年度の一定の資金確保もできた。
------------------------------	----------	--

2 事業全体を振り返って気づいたこと等をお書きください。

<p>事業を実施したことで見えてきた良かったこと、また課題や改善策。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実施したことで見えてきた良かったこと <ul style="list-style-type: none"> ・多人数で、練り歩いてパトロールをすると、窓口案内のカードを受け取ってもらいづらいが、2～3 人の少人数でパトロールを行うと、受け取ってもらいやすいことがわかった。 ・毎週継続することで、若年女性たちと顔見知りになり、困ったら相談できる安心感を抱いてもらうことができた。 2. 課題 <ul style="list-style-type: none"> ・夜間相談所に、ハイジアの地下にある「歌舞伎町二丁目町会事務所」をご厚意で使わせていただいているが、より場所がわかりやすい大久保公園周辺の地上 1 階に夜間相談所を開設することが望ましい。しかし、現在の活動資金では賃料の支払いが困難である。
<p>助成金を利用することで、団体や事業にとって有益となったこと。 (例：事業運営での気づきや工夫、解消された課題等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・助成金を利用したことで、活動資金の一助となった。

令和5年度一般事業助成 助成団体一覧

No.	団体名	法人区分	事業名	助成額 (円)
1	あそびと文化のNPO 新宿子ども劇場	NPO法人	子どもの文化体験格差解消プロジェクト	364,000
2	First Step	NPO法人	区民のためのひきこもり(不登校を含む)への理解と対策講演会及び、ひきこもり個別無料相談会	268,000
3	シャプラニール= 市民による海外協力の会	NPO法人	「わたしの隣の外国人」を知る・つながる連続講座	456,000
4	チーム・フランポネ	任意団体	新宿国際交流漫才大会 S-1グランプリ	500,000
5	えがおさんさん	NPO法人	秋まつり	412,000
合計				2,000,000

令和5年度助成事業の実施状況について（NPO法人 あそびと文化のNPO新宿子ども劇場）

団体名	事業名	事業概要	実施状況（10月23日時点）
1 NPO法人 あそびと文化の NPO新宿子ども劇場	子どもの文化体験 格差解消プロジェクト	<p>①事業の対象者 小学生、小学校や学童クラブなどで関わる先生や指導者、子どもを支える団体の関係者</p> <p>②事業目的 アフターコロナの子ども達に対し、保護者の選択なしに文化体験の機会を届けること・子どもに携わる大人も一緒に体験することで、日常のなかの遊びが広がること・子どもに関わる人々と体験格差について学び、まとめ資料を作成することを目的とした事業</p> <p>③活動内容 (1)小学校でプロアーティストによる体験授業を実施する「アーティスト派遣事業」・(2)学童クラブ等で実施する「あそびの出前事業」・(3)コロナ後の子どもや保護者の実情を共有学習する「講演会事業」・(4)体験格差の現状を明らかにする資料の作成など子どもの文化体験里親寄付制度への準備事業を実施する。</p>	<p>■アーティスト派遣事業 ①12月12日（火）実施予定 予定人数50名 会場：戸山小学校体育館 派遣予定講師：梶原竜也、ほか補助講師4名 ②12月19日（火）実施予定 予定人数80名 会場：市谷小学校 派遣予定講師：柳亭小燕枝師匠</p> <p>■あそびの出前事業 プログラムA 定員30名 みんないっしょに名探偵 講師：大森 靖枝 プログラムB 定員60名 あそびの出前講座 講師：新宿子ども劇場 ①10月11日（水）B 戸山小学校内学童 参加者58名 学童スタッフ6名 <学童先生より> ・子ども達の表情から、とても楽しんでいた様子が溢れていました。手遊びは室内でもやり続けていたり、飛行機を大事に持ち帰ったりと、普段とは違う充実した時間を過ごしていたと思います。 ・普段やったことがないあそびがたくさんとても集中していました。20分で交代していくプログラムのやり方も参考になりました。 ②11月28日（火） A 本塩町児童館学童 ③日時調整中 A 落合第四小学校内学童 ④1月24日（水） B 落合第一小学校内学童 ⑤2月7日（水） B 四谷第六小学校内学童</p> <p>■講演会 ①おとなりはどんな子 7月8日（土） 29名参加 パネリスト：NPOみんなのお家 代表 小林氏、細工町学童施設長 渡辺氏、NPO東京ソテリア 高田氏、西新宿子ども食堂支援 岡崎氏 <参加者の声> ・なんとなく思っていた子どもの姿が少しずつ、はっきり見えてきた気がします。でも、全然まだまだこれからなので、もっと知りたいと思いました。困った子が困っている子というのが印象的で今の自分の子どもたちの状況に学校の状況を重ねて聞いていました。 ・現場の方の生の声を聞くことができて、また、リアルなケースの紹介があり、学ぶことが多かったです。個人的には経済的な格差やルーツの違いに関わらず、子どものいる家庭の孤立は進んでいるように感じています。自分自身が地域とつながることの大切さをより感じる機会となりました。</p> <p>②育つなら新宿一子どもの身近に文化体験をー 12月3日（日） 定員50名 講師：認定NPO STスポット横浜理事長 小川智紀氏</p> <p>■実行委員会 ①9月9日（土） ②10月14日（土） ③11月11日（土） 12月以降は未定 内容：①文化里親制度準備実行委員会として、前回の講演会を受けて、区内に様々な子どもたちがいることを再認識をして、文化体験格差を減らすためにどうしていかけるかの話し合いを実施②以降は具体的な制度を構築し、名称等をどうしていくか検討。寄付を繋いでもらえる団体の状況把握。案内等の検討・区内NPOへ子どもたちがより豊かになるための支援の方法についてアンケートの実施を検討。</p>

令和5年度助成事業の実施状況について（NPO法人 あそびと文化のNPO新宿子ども劇場）

活動の様子

令和5年7月8日(土) 14:00~16:00 若松地域センター 第一集会室
第一回「子ども文化体験格差解消プロジェクト講演会「おとなりはどんな子」



おとなりは どんな子？

新宿区内で子どもたちの
支援活動をしている皆さんと
子どもたちの今を語り
学び、つながる

2023年 7月 8日(土) 14:00~16:00

@若松地域センター 2F 第一集会室

テーマ：新宿の子どもたちの今を知ろう！

あそびと文化のNPO新宿子ども劇場は、「すべての子どもたちに豊かな文化を！」を
ミッションに活動を続けています。

新型コロナウイルス感染症による規制が続き、子どもたちを取り巻く環境も変わってきました。
そこで今回、新宿の中で学校外で子どもたちと関わり、支援している団体の方をパネリスト
として呼びまして現状を知り、今後の課題やどのような支援が必要なのか、また、他の団体
とどのような協力ができるのか、今後の活動の足がかりになればと思っています

主催・申し込み・お問合せ

(特非) あそびと文化のNPO 新宿子ども劇場

住所：新宿区北山伏町 2-17 ゆったりーの

TEL/FAX 03-5261-8696

MAIL: shinjukukodomo123@gmail.com

お申込はこちら→



参加費

500円

定員 50名

後援：新宿区

パネリスト紹介



小林 普子
特定非営利活動法人
みんなのおうち
(外国にルーツを持つ
親子の支援)



渡辺 勝彦
労働者共同組合ワーカーズ
コープ・センター事業団
新宿区立中町児童館・
中町地域交流館館長
細工町学童クラブ施設長



高田 幸子
NPO 法人東京ソテリア
こどもソテリア東京四谷
さんさんハウス
(障がいのある子どもや
ケアを担う子どもへの支援)



岡崎 淑子
民生児童委員 西新宿小学校
スクールコーディネーター
西新宿冒険あそび・わんぱく
(西新宿子ども食堂支援他)

育つなら新宿 —子どもの身近に文化体験を—



「子どもの文化体験格差解消プロジェクト」講演会

2023年 12月3日(日)14:00~16:00

@戸塚地域センター



参加費
500円
定員 50名

新宿は、都市としての多様性を持つ文化豊かな懐の深い街。新宿子ども劇場は、「すべての子どもたちに文化体験を!」と47年間活動していますが、「体験格差」という言葉が生まれるなど、まだまだ多くの子どもたちには届けられてはいません。今回は横浜を拠点に地域と文化芸術をつなげるコーディネーターとして活躍している小川さんをお迎えし、文化のあるくらしがなぜ子どもにとって必要なのか理解を深めます。子育て真っ最中の人も、子どもの育ちをサポートしたい人も、新宿の街が子ども達にとってどんなだったらいのかを一緒に考えましょう。



講師紹介



小川 智紀 (おがわ・ともり)
NPO法人STスポット横浜 理事長
NPO法人子どもと文化全国フォーラム 理事

現在、アートの現場と学校現場をつなぐ横浜市芸術文化教育プラットフォーム事務局、民間の芸術文化活動を支援するヨコハマアートサイト事務局を行政などと協働で担当し、福祉事業のネットワーク化を模索している。

主催・申込み・お問合せ

(特非) あそびと文化のNPO新宿子ども劇場
住所: 新宿区北山伏町 2-17 ゆったり~の共同事務所
TEL/FAX 03-5261-8696
MAIL: shinjukukodomo123@gmail.com



申込みはこちら→

後援: 新宿区

子どもの歩いていける地域で、心に残る文化体験を届けよう。
~新宿子ども劇場地域公演2023~

資料1-2

各公演参加費
子ども(高校生まで)と75歳以上無料
大人1000円

10/28(土) 14:00
『ふるさとまつり四季彩々』
民族歌舞団荒馬座
会場: 西新宿小学校講堂

淀橋

日本に伝わる季節ごとのおまつりの心はずむ唄と踊り、太鼓、お囃子をお楽しみください。



11/18(土) 14:00
『パノラマスティール
オーケストラコンサート』
パノラマスティールオーケストラ
会場: 戸山小学校体育館

大久保

トリニダード&トバゴ発祥の、キラキラと輝く音色のドラム缶楽器スティールパン。特別編成でお楽しみください。



マジシャンにも失敗あり、困った姿も笑いに!
パントマイムを織り込んだマジックショー

11/23(木祝) 13:00
『ジンマサフスキーの
サイレントコメディマジック』
JIN OFFICE
会場: 四谷第六小学校体育館

四谷



けん玉日本一10回、ギネス記録を2つ樹立したけん玉師によるショータイム。
けん玉教室も開催。けん玉で遊ぼう!!

落合

11/25(土) 11:00
『けん玉公演~遊びから学ぶ~』
けん玉座
会場: 落合第四小学校体育館

各公演のお申込はこちらのQRコードからどうぞ



《地域公演》
サポーター大募集

あなたの寄付で地域の子供たちへ心動く文化体験をプレゼント! サポーター大募集
特にコロナ禍では、多くの体験の機会が失われました。
子どもたちが安心して暮らし、育ちゆく、豊かな地域を一緒に作りましょう。
1口:1000円
下記<あそびと文化のNPO新宿子ども劇場>まで



お問合せ先: (特非) あそびと文化のNPO 新宿子ども劇場
〒162-0853 新宿区北山伏町 2-17 ゆったり~の共同事務所
TEL/FAX/03-5261-8696 MAIL/shinjukukodomogekijo@mbr.nifty.com



新宿子ども劇場
http://www.kodomogekija.net/

来て・見て・楽しい
新宿フィールドミュージアム

令和5年度助成事業の実施状況について (NPO法人 First Step)

	団体名	事業名	事業概要	実施状況 (10月23日時点)
2	NPO法人 First Step	区民のためのひきこもり(不登校を含む)への理解と対策講演会及び、ひきこもり個別無料相談会	<p>① 事業の対象者 民生委員・児童委員、町会役員、引きこもり当事者及び家族、支援をしようとしている一般区民</p> <p>② 事業目的 引きこもり(不登校を含む)への「地域住民の理解促進」と対策の周知及び家族会の存在の周知を目的とした事業。</p> <p>③ 活動内容 講演会「引きこもり(不登校を含む)への理解と対策」を開催し、講演会の翌日に「ひきこもり個別無料相談会」を実施する。</p>	<p>■区民のためのひきこもり(不登校含む)への理解と対策講演会 『斎藤環氏の「ひきこもり」講演会』 12月9日(土) 定員100名 四谷地域センター多目的ホール</p> <p>申込:31名(10/31時点) 周知:広報しんじゅく 10月5日号掲載 その他民生委員、各区施設にチラシ配布 区SNS(LINE・ツイッター・Facebook・yahoo!暮らし) 11月3日配信 団体が持つ区内のあらゆる知り合いを通して、チラシを配布して周知 団体のSNSを通じた周知</p> <p>■ひきこもり個別無料相談会 12月10日(日) 6家族を予定 戸塚地域センター会議室3・4 (11/15号広報しんじゅく掲載予定)</p>

さいとうたまき 齋藤環氏の「ひきこもり」講演会

ひきこもり・不登校はなぜ増え続けるのか？

オープンダイアログ的対話はひきこもりにも有効か？

講師 筑波大学医学部教授 齋藤環氏

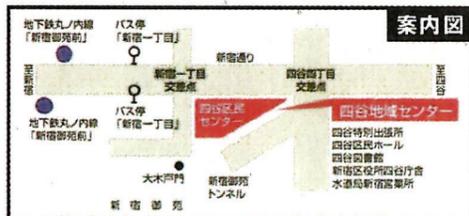


ひきこもり治療の第一人者であり、新しい心理療法・オープンダイアログの紹介者でもある齋藤環氏に、ますます増えるひきこもり・不登校の理由と、当事者たちの社会復帰を支援する方法を具体的にお示しいたします。

日時 令和5年(2023年) 12月9日(土) ※申込み締切は12月4日(月) 14:00~16:30(13:30開場)

会場 四谷地域センター(12階多目的ホール)

会費 1,000円(定員100名)



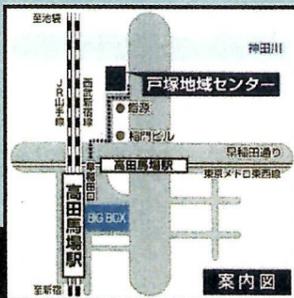
お申込みはこちらから

※空調の関係で、寒暖の調節ができる服装でお越しください。

ひきこもり 個別無料相談会

個別無料相談会ではひきこもりや不登校のお子さんをもつご家族のお悩みをゆつくり伺います。

日時 令和5年(2023年) 12月10日(日) 13:30~17:00
会場 戸塚地域センター 会議室3(5階)、会議室4(6階)
会費 無料(必ず電話予約してください)



主催: NPO法人FirstStep
HP: <https://1st-step.tokyo>

電話予約: 070-6576-4633
FAX: 03-3362-6656

令和5年度助成事業の実施状況について（NPO法人 シャプラニール=市民による海外協力の会）

団体名	事業名	事業概要	実施状況（10月25日時点）
<p>NPO法人 シャプラニール =市民による海外協力の会</p>	<p>「わたしの隣の外国人」を知る・つながる連続講座</p>	<p>① 事業の対象者 地域課題に関心がある人、多文化共生に興味がある人、同じ地域に住む外国人の状況について知りたい区民</p> <p>② 事業目的 連続講座を通じて、日本や地域コミュニティにおける在住外国人の状況について理解を深め、在住外国人と共に暮らすことを我が事として捉えるような意識の変容や主体的に関わるといった実践に繋げることを目的とした事業。</p> <p>③ 活動内容 外国人受入れの変遷の振り返りや現状、区内の多文化共生の状況、地域活動を行う人の活動紹介、在住在勤外国人による母国文化の紹介など多文化共生の学びを深める講座を開催する。</p>	<p>■第1回 私の隣の外国人～日本の在住外国人について知ろう 8月26日（土）開催 18名参加 会場：大久保地域センター 登壇講師：吉富志津代氏/NPO多言語センターFACIL 特別顧問 <参加者の声> 外国人との共生の具体的な事例を聞きたかった、外国人による付度のない生の声を聞きたかったという具体的なリクエストがあった。 ・参加者アンケート 満足度100%：5名（34%）、80%：6名（40%）、60%：3名（20%）、40%：0名（0%）、20%：1名（6%） <実施からの学び・対応> リクエストを第3回、第4回の講座内容の詳細企画時に反映させていくことを検討する。</p> <p>■第2回 多様な人々が行きかう町、新宿 ～新宿の在住外国人について知ろう～ 10月21日（土）開催 23名参加 会場：大久保地域センター 9月15日号広報しんじゅくに掲載 登壇講師：室橋裕和氏（ジャーナリスト） <参加者の声> 具体的に即時性の高い事例を複数聞けた、実際に外国人と出会いたい・交流したいという声が複数あった。 ・参加者アンケート 満足度100%：11名（58%）、80%：8名（42%）、60%：0名（0%）、40%：0名（0%）、20%：0名（0%） <実施からの学び・対応> 在住外国人との出会いに対して意欲的な参加者が多いが、関係構築できるような場がないことに課題を抱えていることがわかった。当会の多文化共生コミュニティスペース「マザリナ」をひとつの選択肢として紹介することに今後更に取り組む。</p> <p>■第3回 地域に住む外国人と一緒にできることを考える 12月9日（土）開催 定員20名 会場：大久保地域センター</p> <p>■第4回 外国ルーツの方と交流し、多文化共生について考える 開催日未定 定員20名 会場未定</p>

活動の様子

令和5年8月26日(土) 14:00～16:00 多く地域センター
第一回 私の隣の外国人～日本の在住外国人について知ろう



参加無料・先着20名

令和5年度 新宿区協働推進基金助成金一般事業助成事業

「私の隣の外国人」を知る・つながる 連続講座* 第1回

日本に住む外国人はどんな人たちなのでしょう？
あなたの知らない、日本に暮らす外国人。

「私の隣の外国人 日本の在住外国人について知ろう」

8.26(土) 14時~15時半 会場 | 大久保地域センター 会議室A
(開場 13時45分) (新宿区大久保2-12-7)

✓この講座で得られること

私たちの地域には多くの外国出身の方が暮らしています。いったいどんな人が日本で生活しているのでしょうか？どうして外国人が増えているのでしょうか？日本で生活する外国人の状況、そして彼らを受け入れる日本社会の状況について、この分野で豊富な経験を持つNPOの方からお話をうかがいます。



講師 吉富志津代氏

NPO多言語センターFACIL 特別顧問。
南米の領事館勤務を経て、1990年の日系人受入れや阪神・淡路大震災をきっかけに、多様性を重視し誰も排除しない地域社会をめざす活動を始める。武庫川女子大学教授。

✓お申込方法

- 対象 新宿区在住/在勤/在学の方
- 参加費 無料
- お申込期間 7/27(木)~8/23(水)

下記「問い合わせ先」にメールか電話、FAXにて①氏名、②電話番号、③メールアドレス、④ご住所をご連絡下さい

詳細はこちら▶



* 本講座は全4回の連続講座です。2023年10月~2024年3月にかけて残り3回の講座を実施予定です。



【主催】認定NPO法人シャプラニール=市民による海外協力の会
【問い合わせ先】多文化共生事業担当・菅野
Mail: tabunka@shaplaneer.org / TEL:03-3202-7863 / FAX:03-3202-4593
(受付時間は日・月曜日、祝日を除く午前10時~午後6時です。)

* 本講座は全4回の連続講座です。2023年12月~2024年3月にかけて残り2回の講座を実施予定です。第1回の講座を受講していなくてもご参加頂けます。

参加無料・先着20名

資料1-2

令和5年度 新宿区協働推進基金助成金一般事業助成事業

「私の隣の外国人」を知る・つながる 連続講座* 第2回

新宿に住む、働く、外国人はどんな人たちなのでしょう？

「多様な人々が行きかう町、新宿」 新宿の在住外国人について知ろう

10.21(土) 15時~16時30分 会場 | 大久保地域センター 会議室A
(開場 14時45分) (新宿区大久保2-12-7)

✓講座概要

私たちの住む新宿には多くの外国出身の方が暮らしています。いったいどんな人が生活しているのでしょうか？どうして外国人が増え続けるのでしょうか？新宿で住む・働く外国人や多文化共生の状況について、新大久保に住みながら様々な外国人の方々の取材をされているジャーナリストの方にお話をうかがいます。

✓お申込方法

- 対象 新宿区在住/在勤/在学の方
- 参加費 無料
- お申込期間 9/19(火)~10/18(水)

下記「問い合わせ先」にメールか電話、FAXにて①氏名、②電話番号、③メールアドレス、④ご住所*をご連絡下さい



講師 室橋裕和氏

1974年生まれ。週刊誌記者を経てタイに移住。帰国後はアジア専門のライター、編集者として活動。主な著書は「エスニック国道354号線」(新潮社)、「ルポ新大久保」(辰巳出版)、「日本の異国」(晶文社)。

講座詳細は
こちら▶



* 本講座は「令和5年度 新宿区協働推進基金助成金一般事業助成事業」であるため、新宿区在住/在勤/在学の方を対象としています。



【主催】認定NPO法人シャプラニール=市民による海外協力の会
【問い合わせ先】多文化共生事業担当・朴(パク)
Mail: tabunka@shaplaneer.org / TEL:03-3202-7863 / FAX:03-3202-4593
(受付時間は日・月曜日、祝日を除く午前10時~午後6時です。)

令和5年度助成事業の実施状況について（チーム・フランボネ）

団体名	事業名	事業概要	実施状況（10月23日時点）
4 チーム・フランボネ	新宿国際交流漫才大会 S-1グランプリ	<p>① 事業の対象者 外国人留学生、日本人</p> <p>② 事業目的 芸人の視点で「お笑い×新しい多文化共生」を提案するというテーマで、外国人留学生と区民がお笑いを通じた交流を促進させ、外国人に対する差別意識の軽減を目的としている事業。</p> <p>③ 活動内容 新宿区の日本語学校などで、2分間の漫才の完成を目指す講座「漫才作成講座」の実施と、外国人留学生による漫才大会「新宿国際交流漫才大会 S-1グランプリ」を開催する。</p>	<p>■日本語教師説明会 7月21日（金）日本語教師25名参加 新世界語学院教室にて開催 新大久保 / 大久保、高田馬場にある日本語教師に対して「S-1グランプリ」の趣旨を説明したところ10校以上から参加意向あり。</p> <p>■漫才作成講座 7/27(木), 7/31(月), 8/17(木), 8/21(月), 8/22(火), 8/23(水), 9/7(木), 9/8(金), 9/9(土) 外国人留学生が20名から30名参加 実施場所：早稲田EDU日本語学校、ミツミネ日本語学校、KAI日本語学校ほか。 →早稲田EDUで実施した「漫才で覚える日本語」の様子が東京新聞の取材対象となり10/5付の東京新聞朝刊にてカラー一面で紹介される。 10/4(水), 10/13(金), 10/19(木)にも漫才作成講座を実施しており11月以降も新宿区にある日本語学校を中心に講座を実施する。12月と1月には東京富士大学にて日本人と外国人がコンビを組んだ「国際交流漫才」を実施することも確定している。</p> <p><参加者の声(日本語学校教師の感想)> ・どんな分野でも日頃関わらない日本人と関わることは価値があると思います。学生にとって新鮮だっただけでなく自分が知らない学生の一面が見られました。 ・学生の別の顔が見られた点です。かなりのボリュームの具体例をインプットすること、ポジティブなフィードバックを与え続け、ハードルを下げること、楽しんで参加する雰囲気を保つことで、普段消極的な学生の違った側面が見られ、感動しました。</p> <p>■S-1グランプリ 2月24日(土)開催予定 参加予定人数100名 会場：新世界語学院大会議室 日本語学校約10校が参加予定。11月からチラシ及び広報しんじゅくにて情報発信予定。 11月にA4両面カラーの最終版「S-1グランプリ」のチラシが完成、1000枚を印刷予定、新宿区にある掲示板及び日本語学校に配布予定。</p> <p>その他、多文化共生推進課と連携し、日本語教室において参加者募集チラシを配布する。また、NPO法人シャプラニール=市民による海外協力の会と連携し、同団体が開設した「マザリナ」のオープニングイベントに出演した。</p>



新宿国際交流漫才大会 S-1グランプリ 出場者募集

新宿区にある日本語学校にて「漫才作成講座」として「漫才で覚える日本語」という講座を2回実施します。2回この講座を実施すると参加者全員が1分から2分の漫才を作成することができます。そして外国人留学生による「新宿国際交流漫才大会S-1グランプリ (SはShinjuku)」を来年の2月に開催します。

日時 2024年2月 **申込み**

住所・氏名・年齢・電話番号
メールアドレスまたはFAX
番号を明記の上、下記までご
連絡下さい。

問合せ

チーム・フランボネ

TEL: 080-4440-1879 FAX: 03-3365-8778

E-mail manabu_shimaoka@hotmail.com

※実施団体チーム・フランボネとは吉本興業所属芸人によって創設された任意団体です。

令和5年度助成事業の実施状況について（NPO法人 えがおさんさん）

	団体名	事業名	事業概要	実施状況（10月23日時点）
5	NPO法人 えがおさんさん	秋まつり	<p>① 事業の対象者 障害のある児者とご家族、地域の方</p> <p>② 事業目的 重い障害の子を育てる家族は、様々な課題から外出へのハードルが高く、安心して楽しめるイベントへの参加は難しいため孤立しがちである。こうした背景を踏まえ、子どもの体調管理や身体介護も安心して実施しながら参加できるイベントを開催することを目的とした事業。</p> <p>③ 活動内容 難病・障害のある本人と家族向けに有志ボランティアが、区内の養護学校等で秋まつりを開催する。室内でのお祭りの開催・外部依頼出演者や学生ボランティアによる出し物・縁日(ゲーム体験)・おもちゃ等機器の体験ブースを展開する。</p>	<p>・秋まつり 実施予定日：11月25日（土） 会場：新宿養護学校（会場を特例で使用しているため、養護学校の要請により会場は非公開（参加者のみに連絡）） 周知：10月25日号広報しんじゅく掲載予定 出し物：ボール落とし、ボール投げ、ワニワニパニック、ボランティアによるショーなど</p>

第19回

えがおさんさん秋まつり



【日時】 2023年11月25日(土)

【対象】 区内在住で難病や障害・医療ケアのある小・中学生とその家族

【第1部】 10:00~12:00

【第2部】 13:30~15:30 *1部2部入れ替え制(1部と2部ともに同じ内容です。)

☆プログラム☆ 内容は当日変更することがあります。

- ・セネガル出身のウスマンさんによる音楽演奏
- ・ピエロのようへいくんによるパフォーマンス
- ・お楽しみ(#~#)
- ・みんなで踊ろう(今年のダンスはなんでしょう?)
- ・学生さんによるパフォーマンス ♡などなど♡

- ◆新宿区福祉作業所のパン屋さん
- ◆お風呂屋のビックパン の展示もあります。

*会場でのお食事はできません

4年ぶりに秋まつりを開催します。

新宿区内在住のお子様、ご家族、午前・午後合わせて、先着10組までご参加いただけます。

お申込みは info@egaosunsun.com **11/11(土)まで**

<お願い>

今年のえがおさんさん秋まつりは無料です。

よろしければ賛助会員入会・継続をお願いいたします。

また寄附も随時受け付けております。

皆さまの会費や寄附は、えがおファンクラブ事業のお預かりテイヤ

クリスマス会、制度外サポートに充てさせていただきます。

HP

インスタ

寄付のお願い



【会場等お問合せは】

特定非営利活動法人えがおさんさん

新宿区高田馬場1-25-36-30C

☎ 03(3209)8668 Fax 03(3209)2033

E-mail: info@egaosunsun.com

令和6年度一般事業助成における変更点について

令和6年度一般事業助成の募集において、「一次評価（書類評価）の評価票提出時期」及び「新型コロナウイルス感染症対策経費の取扱い」の2点について、下記のとおり変更を考えております。

記

1 一次評価（書類評価）評価票の提出時期の変更について

令和5年度は、一次評価の評価票を第1回協働支援会議において提出していただきました。しかしながら、申請団体が8団体と例年より多かったこともあり、集計に時間がかかってしまいました。

そのため、効率的に会議を進める方法について、事務局で検討し、第1回協働支援会議の前に評価票を提出していただく方法への変更を提案させていただきます。

【変更内容】

変更前	協働支援会議で協議を行った後、評価票を提出する。
変更後	事前に評価票を提出し、協働支援会議で協議を行う。

2 新型コロナウイルス感染症対策経費の取扱いについて

新型コロナウイルス感染症の位置付けが、令和5年5月8日から「5類感染症」となり、法律に基づき、行政が様々な要請・関与をしていく仕組みから、個人の選択を尊重し、自主的な取り組みをベースとした対応に変わりました。

一方で、新型コロナウイルス感染症については、マスクの着用や手指消毒等は基本的な感染症対策として有効とされております。また、インフルエンザ等の新型コロナウイルス以外の感染症の感染防止対策についても、事業の実施においては引き続き重要です。

そのため、助成率等についてはそのままとし、新型コロナウイルスに限らず経費を計上できるように、名称変更を考えております。

【変更内容】

変更前	新型コロナウイルス感染症対策経費 助成率 10/10、上限 2 万円まで
変更後	感染症対策経費(案) 助成率 10/10、上限 2 万円まで

一般事業助成 助成団体決定までの流れについて(案)

1 募集説明会(団体・事務局)

期間：令和6年3月15日(金)から周知開始、3月25日(月)～3月29日(金)に説明会を実施。

概要：申請団体に向けた募集説明会を2回開催する。(2日間)

説明会は、講演1時間、説明1時間の計2時間。

※令和5年度募集は、関口委員・伊藤委員に講演を依頼。

2 事前相談・申請受付期間(団体・事務局)

期間：令和6年4月1日(月)～12日(金)まで

概要：団体による申請書類の提出(※窓口又は郵送での提出)

申請書類に基づいて団体と打合せ及び不備等の確認を行う。打合せでは事業内容について説明を受け、アドバイスや疑問点について確認する。事業計画書及び予算見積書について不足等があれば補正を依頼する。

3 申請書類ファイル作成(事務局)

期間：令和6年4月15日(月)～17日(水)

概要：募集要項、団体一覧表、一次評価の評価票、団体からの申請書類を取りまとめたファイルを作成する。

4 申請書類ファイルの送付(事務局)

期間：令和6年4月18日(木)

概要：「3 申請書類ファイル作成」で完成したファイルを各委員に送付。

5 申請書類ファイルの事前評価(委員)

期間：令和6年4月19日(金)～30日(火)

概要：申請書類ファイルに添付されている申請書類について書類評価を行う。

第1回協働支援会議で一次評価を行うため、申請書類を読み込んでいただき、疑問点等や確認事項について事前に準備をしてもらう。

6 一次評価 評価票の提出(委員)

期間：令和6年4月30日(火)

概要：一次評価の評価票の事前提出

支援会議当日の時間短縮のため、令和6年度から会議前に評価票を事務局に提出してもらう。

7 一次評価 評価票の集計(事務局)

期間：令和6年5月1日(水)

概要：提出された評価票を集計する。

令和5年度は

「8 第1回協働支援会議」において、申請事業について協議後に評価表を提出。

8 第1回協働支援会議(委員・事務局)

期間：令和6年5月7日(火)～8日(水) (予定)

概要：一次評価(書類評価)を実施

今年度のスケジュール確認、申請事業についての協議、集計結果及び一次評価通過団体の公表、二次評価(プレゼンテーション)の実施方法についての協議。

一次評価は、申請事業についての説明、委員による協議、集計結果の公表

協議後に評価点を修正する場合は、修正後の評価票を再度提出してもらい、最終的な集計結果を公表する。

※疑問点など団体に説明して欲しい事項は集約し、二次評価(プレゼンテーション)において団体に回答してもらう。

令和5年度は、

申請事業についての説明、委員による協議、評価票の提出及び集計、集計結果の公表を実施

9 一次評価(書類評価)結果の通知(事務局)

期間：令和6年5月9日(木)～10日(金)

概要：一次評価結果とプレゼンテーション時に説明して欲しい事項(事前質問)を通知する。

また、プレゼンテーション資料の提出等について連絡する。

10 プレゼンテーション資料の提出(団体)

期間：令和6年5月20日(月)～21日(火)

概要：団体よりプレゼンテーションで使う資料(パワーポイント等)を提出してもらう。

※期限までに提出があった資料のみプレゼンテーション当日に使用可能とする。

11 二次評価(プレゼンテーション)に向けての準備(事務局)

期間：令和6年5月9日(木)～5月24日(金)

概要：一次評価会の実施に向けた準備を行う。また、二次評価(プレゼンテーション)で配布する資料を作成する。

(提出のあったプレゼンテーション資料、事業計画書、収支予算書等)

12 第2回協働支援会議(団体・委員・事務局)

期間：令和6年5月27日(月)～28日(火) (予定)

概要：二次評価(プレゼンテーション)を実施

一次評価の得点が低い順にプレゼンテーションを実施する。

プレゼンテーション時間15分、質問時間15分

事業についてのプレゼンテーション及び事前質問についての回答。

質問は個別質問制で実施する。

全ての団体のプレゼンテーションの終了後、委員より評価票を提出してもらい、助成団体の公表を行う。

13 助成決定(事務局)及び事業実施にあたっての説明会(団体・事務局)

期間：令和6年6月3日(月)～

概要：評価結果を通知すると共に、事業実施にあたっての注意点を個別に団体へ説明する。

令和6年度一般事業助成 スケジュール表 (案)

日付	曜日		日付	曜日		日付	曜日		
3月1日	金		4月1日	月	事前相談・申請受付開始期間	5月1日	水	一次評価 評価票の集計	
3月2日	土		4月2日	火		5月2日	木		
3月3日	日		4月3日	水		5月3日	金		
3月4日	月		4月4日	木		5月4日	土		
3月5日	火		4月5日	金		5月5日	日		
3月6日	水		4月6日	土		5月6日	月		
3月7日	木		4月7日	日		5月7日	火	第1回協働支援会議(書類評価)候補日	
3月8日	金		4月8日	月		5月8日	水		
3月9日	土		4月9日	火		5月9日	木	一次評価結果通知発送 二次評価説明事項を連絡	協働支援会議 に向けての 準備
3月10日	日		4月10日	水		5月10日	金		
3月11日	月		4月11日	木		5月11日	土		
3月12日	火		4月12日	金		5月12日	日		
3月13日	水		4月13日	土		5月13日	月		
3月14日	木		4月14日	日		5月14日	火		
3月15日	金	区広報紙等掲載	4月15日	月	5月15日	水			
3月16日	土	説明会申込期間	4月16日	火	申請書類ファイル作成	協働支援会議に 向けての準備	5月16日	木	
3月17日	日		4月17日	水			5月17日	金	
3月18日	月		4月18日	木	申請書類ファイル発送	5月18日	土		
3月19日	火		4月19日	金		5月19日	日		
3月20日	水		4月20日	土		5月20日	月	プレゼンテーション資料の提出期限	
3月21日	木		4月21日	日		5月21日	火		
3月22日	金		4月22日	月		5月22日	水		
3月23日	土		4月23日	火	申請書類ファイル	5月23日	木		
3月24日	日		4月24日	水	内容確認・事前評価の実施	5月24日	金		
3月25日	月		4月25日	木	(委員)	5月25日	土		
3月26日	火	4月26日	金		5月26日	日			
3月27日	水	募集説明会	4月27日	土		5月27日	月	第2回協働支援会議(プレゼン評価)候補日	
3月28日	木		4月28日	日		5月28日	火		
3月29日	金		4月29日	月		5月29日	水		
3月30日	土		4月30日	火	一次評価評価票の事前提出(委員)	5月30日	木		
3月31日	日				5月31日	金			
					6月1日	土			
					6月2日	日			
					6月3日(月)～	助成決定通知・事業実施にあたっての説明会			